

YAMAHA MULTI-KEYBOARD SET UP



●自分のサウンドは自分で管理したい。

キーボードの数が増えるほど問題になってくるのが、各キーボード間の音量バランスや、音質バランス。自分の音楽性、個性を活かし、またPA配線系の簡略化を計るためにも、キーボード自身はミキシングし、メインPAコンソールに送るという方法をとりたいためです。写真左はエレクトリックグランドCP-80、エレクトロニックピアノCP-30、プログラマブルメモリーシンセサイザーCS-40M、デュアルチャンネル・シンセサイザーCS-15D、シンフォニックアンサンブルSK-10、コンボオルガンYC-45Dをインフラアウトプットにランス型キヤノンコンネクターを採用した8チャンネルミキサーPM-430に接続し、ダイナミックレンジの広さを定評あるワープアップ内蔵型スピーカーA4115Hによりモニターする……というぜいたくなマルチキーボード・システム。エフェクターとしては純電子式アナログダイレイE1005を使用しています。それぞれの設定について、詳しく述べていきましょう。

●キーボード各機種のアウトプットについて。PM-430はバランス型のミキサー。CP-80、CS-40Mについてはそのままキヤノンのランス型アウトを使い、他のキーボード群は片方がフォーンプラグ片方がキヤノンコンネクターにならばランス用のコードでPM-430に接続するの

が一般的なり方。ただしロッドのサウンドクオリティをもとめる場合には、ダイレクトボックスを使い、各キーボードの後段でアンバランスをバランスに変換。PM-430に送るという方法がよいでしょう。どの接続端子を使用するかについては、下の接続図をご参照ください。

●入力レベルの粗調整について。

一般のキーボードは機種によって出力レベルのバラつきがありますが、ヤマハは標準レベルとして-20dBmを採用。従って、基本的にはPM-430のアッテネーターを、-20dBmに合わせます。ただし演奏法などによってもキーボードの出力レベルは変化しますから、たとえばCP-80、CP-30でレガートを多用するといったケースではPM-430の入力感度を上げる(-20dBmから-40dBm、-50dBmへ)ことが必要になります。

●入力レベルの微調整について。

まずPM-430のチャンネルフェーダーを絞り、マスターフェーダーは目盛り10程度に合わせます。次に機種ずつ実際に使おう音を出し、ピークがOVUになるようそれぞれのチャンネルフェーダーを上げていきます。これで各チャンネルの音量が揃ったわけですが、ただしレベルがつかから0の間は納まらないチャンネルがあれば粗調整に戻り、アッテネーターの設定をやり直します。次に全体の音量バランスを決めため、複数のキーボ

ードの音を出し、ピークOVUになるようマスターフェーダーで調整。そして各キーボードについて、自分好みの音量バランスをチェックしていきます。また、モニタースピーカーのミキシングはモニター2つにランスをとり、モニター全体の音量はモニターマスターフェーダーにより調整。エフェクトについては、各チャンネルについてのみ、モニターレベルを調整します。

●ミキサーによる、音色の調整。

PM-430の各チャンネルに装備されたハイ、ローふたつのイコライザーによって、キーボードの音色を決定します。この場合、マスターのイコライザーはフラットに各チャンネルの音量は基準値にしておき、ヘッドフォンでモニターします。なおマスターのイコライザーは、エフェクトのセッティングが終わった後、最終的な音色補正に使用。

●エフェクター-E1005の調整。

E1005側DELAY ONLYのアウトプットとPM-430のFROM ECHOを接続。インフラAまたはBはTO ECHOに接続します。E1005のセッティングはまずミキシングのつまみをDILAY側に合わせ、次にDELAY、FEEDBACK、MODULATIONなど、実際に使ったエフェクトのつまみを好みのレベルにセットします。次に入力レベルの微調整の項で述べたように、PM-430のモニター1で、エフェクトのレベルを調整します。

